

## 5-1 東海・南関東地域の地震活動 (1991年11月～1992年4月)

Seismic Activity in Tokai and Southern Kanto Districts  
(November, 1991 – April, 1992)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は、1991年11月～1992年4月の東海・南関東地域における月別震央分布図、第2図(a)・(b)は1991年11月～1992年1月と1992年2月～4月の3カ月間ごとの震央分布図、第3図は1991年1月～12月の1年間の震央分布図である。いずれも震源の深さが90km以浅の地震の震央を示してある。この期間、特に目立った地震活動としては、昨年12月24日～本年1月3日の伊豆半島東方沖の群発地震(最大地震M3.0, 12月26日)、本年1月7日東海道はるか沖のM5.1, 2月2日東京湾南部のM5.9(震源の深さ92kmでこの図の範囲外)、3月10日神津島近海のM5.3, 4月14日茨城県南西部のM5.0などであった。これらの活動については詳細を本巻別項に掲載した。

東海地域は、上記東海道はるか沖のM5.1と本年2月17日浜名湖付近のM4.3以外、特に目立った活動はない。伊豆半島東方沖の12月24日から1月3日にかけての群発地震は、小規模なものであった。伊豆大島近海は静穏であったが、新島～神津島近海から東海道はるか沖にかけての南方海域で活動が活発であった。各月の活動状況は次のとおり。

11月：この月のMの最大は東京湾のM4.9(19日17時24分)、深さは81kmで最大震度は4(東京)であった。東海地域は特に目立った活動はなかった。東海道はるか沖でM3クラスが4個発生したほか、愛知県南部で26日から29日にかけて最大のMが3.5(26日16時36分)の小活動<sup>\*1)</sup>があった。また関東地方の内陸部では、上記東京湾のM4.9のほか、埼玉県中部と茨城県南部でM4クラスの地震が発生した。

12月：Mの最大は鹿島灘のM4.6(12日11時27分)、深さ48kmで最大震度4(水戸)。東海地域は特に変化はなかった。東海道はるか沖でM3クラスが3個発生したほか、愛知県南部でM3クラスが2個、伊勢湾北部で1個発生した。また、上記のように伊豆半島東方沖で小規模な群発地震が発生した。ほかに上記鹿島灘のM4.6の地震、八丈島東方沖でM4クラス、紀伊半島南東沖でM3クラスの地震が目をつけた。

1月：Mの最大は東海道はるか沖のM5.1(7日05時41分)、深さ35kmで最大震度3(三宅島)<sup>\*2)</sup>。東海地域は特に目立った活動はないが、東海道はるか沖が活発で上記地震が発生し、余震を伴った。この海域は昨年9月3日、M6.3の地震の余震域の南西部にあたる。愛知県南部と北西部でM3クラスが各1個発生した。伊豆半島東方沖では先月24日からの活動が3日まで続いた。そのほか千葉県中部と茨城県南西部でM4クラスの地震が各1個、三重県北部でM3クラスの地震が2個発生した。また、新島から神津島近海にかけてはM3クラスの地震が4個発生するなど活発な状態が続いている。

2月：Mの最大は八丈島東方沖のM4.8（17日23時13分）、深さ61kmで最大震度2（八丈島）。東海地域は特に変化はないが、静岡県中部（B領域内）\*3)でM3.4（29日15時52分）、深さ23kmで最大震度1（静岡）の地震、浜名湖付近でM4.3（17日08時54分）、深さ36.9kmで最大震度1（浜松）の地震が発生した。また愛知県東部と北部、伊勢湾でM3クラスが各1個発生した。伊豆半島東方沖では活動レベルが前月より低下した。八丈島東方沖の上記地震のほか、神奈川県西部でM3クラス、房総半島南東沖でM4クラスが2個、東方沖でM4クラスが1個発生したのが目を引いた。また、震源が90kmより深い地震であるが、東京湾南部でM5.9（2日04時04分）、深さ92kmで最大震度5（東京）の地震が発生した。この地震により負傷者34人、配管破損2件、火災1件などの被害があった。

この東京湾南部の地震が発生した直後、房総半島南部の西海岸沿いにM2クラスの地震が発生し始め（2月6日12時35分の地震が最初）、2月中に12個の震源が決定された（深さは74kmから86kmの範囲）。

3月：Mの最大は神津島近海のM5.3（10日03時15分）、深さ11kmで最大震度3（三宅島）。東海地域は特に変化はないが、駿河湾南部（B領域）でM3.1（9日03時58分）の地震が発生したのが目を引いた。この地震のメカニズム解は北西－南東圧縮の逆断層型である。

また、愛知県東部で15日にM3.1\*4)の地震、中部と西部でM3クラスの地震が各1個発生した。また岐阜県南西部で11日M3.7、最大震度1（彦根）の地震があった。伊豆半島東方沖の活動レベルは低い。新島から神津島近海にかけては引き続き活発で、神津島近海で上記M5.3の地震、新島近海でM3クラスの地震が発生した。茨城県沖でM3クラスの地震が8個発生し、この範囲の北側でもM4.8（6日05時15分、無感）が発生するなどやや活発だった。

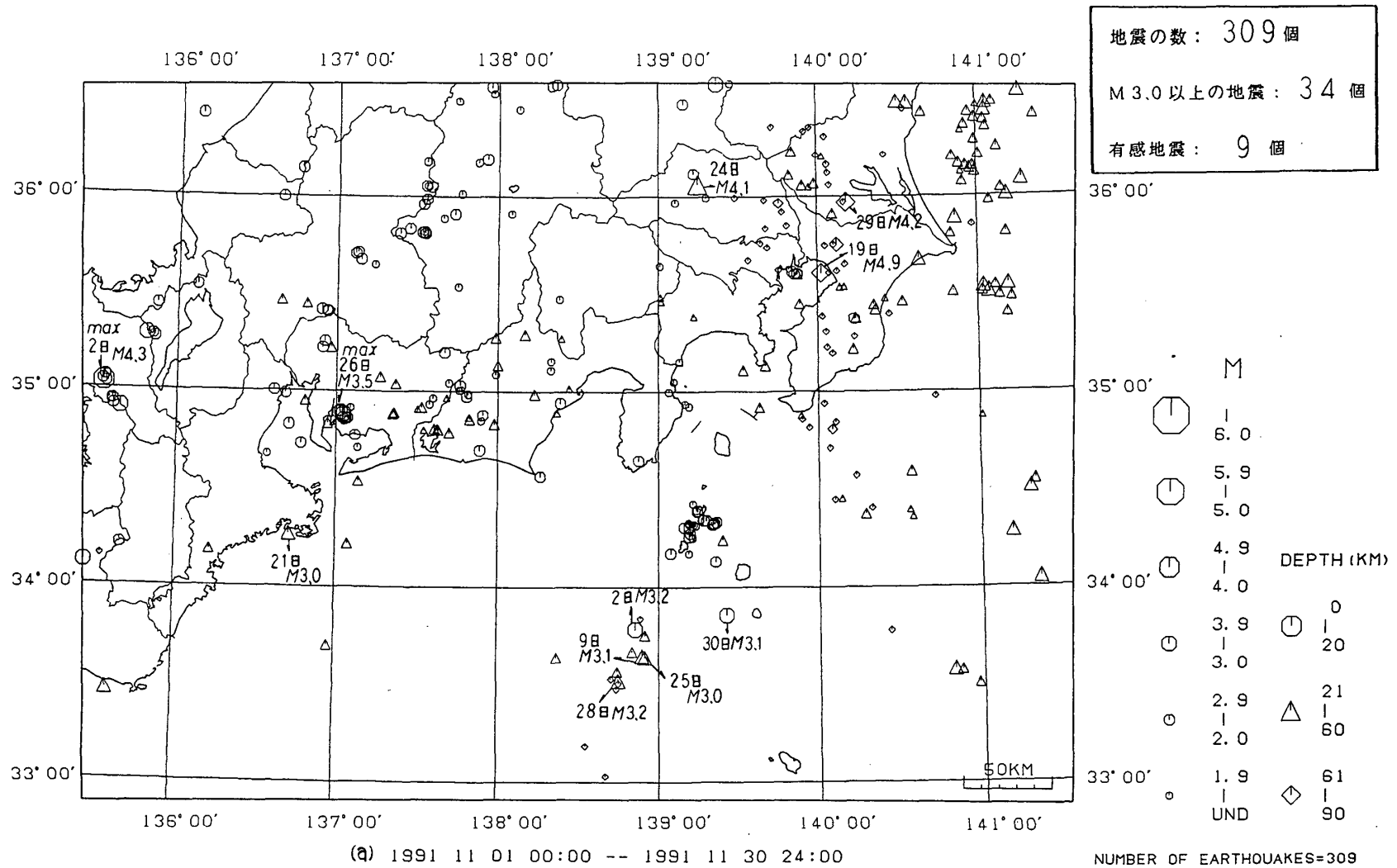
4月：Mの最大は茨城県南西部のM5.0（14日12時03分）、深さ62kmで最大震度は4（水戸）。東海地域は特に目立った活動はないが、駿河湾北部（B領域）でM3.1（24日21時12分）、最大震度1（網代）の地震が発生した。この付近ではM3以上の地震はほとんど発生していない。この地震のメカニズム解は南北圧縮の正断層成分を持つ横ずれ断層型である。愛知県は前月に比べ静穏となり、岐阜県南西部でM3クラスの地震が1個発生した。伊豆半島東方沖から伊豆大島近海にかけての活動レベルは低い。南関東から神津・新島近海にかけての領域では地震活動がやや活発だった。茨城県南西部の上記M5.0の地震、山梨県東部のM4.1（8日11時49分）、深さ23kmで最大震度3（河口湖）の地震、東京都東部のM4.9（10日23時31分）、深さ89kmで最大震度3（東京など）の地震、また銚子付近、房総半島南東沖、奈良県南部、茨城県南西部でもM4クラスの地震が発生した。神津島近海では最大のMが3.6（23日19時37分）の地震を含む小規模な群発地震が発生した。

\*1) 愛知県南部の浅いところ（深さ15km位）で26日から27日にかけてM3クラスの地震3個を含む小地震活動があった。震源決定された地震の数は29日の1個を含め6個である。

\*2) この地震の再計算結果（最終値）は次の通り。震源時1月7日05時41分35.0秒、33°33.6'N、138°41.6'E、深さ34.0km、M5.1。

\*3) B領域については、本巻別項「東海地方における地震活動の変化」を参照。

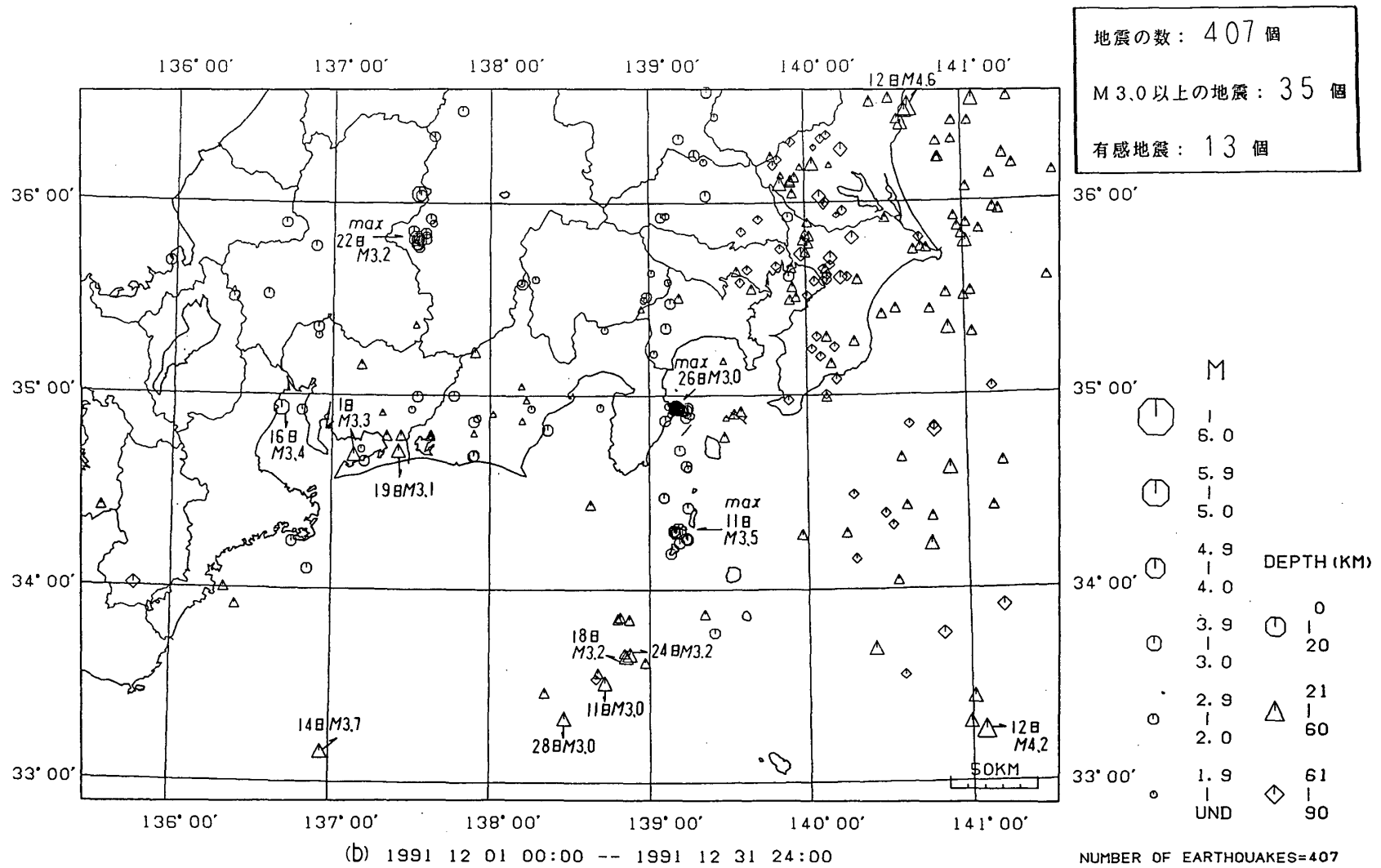
\*4) 愛知県東部の浅い所（深さ10km位）で2月22日から3月15日にかけてM3クラス2個の地震を含む8個の震源が決定された。



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図(a)～(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1991年11月～1992年4月)

Fig. 1 (a)-(f) Monthly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, November, 1991 – April, 1992.

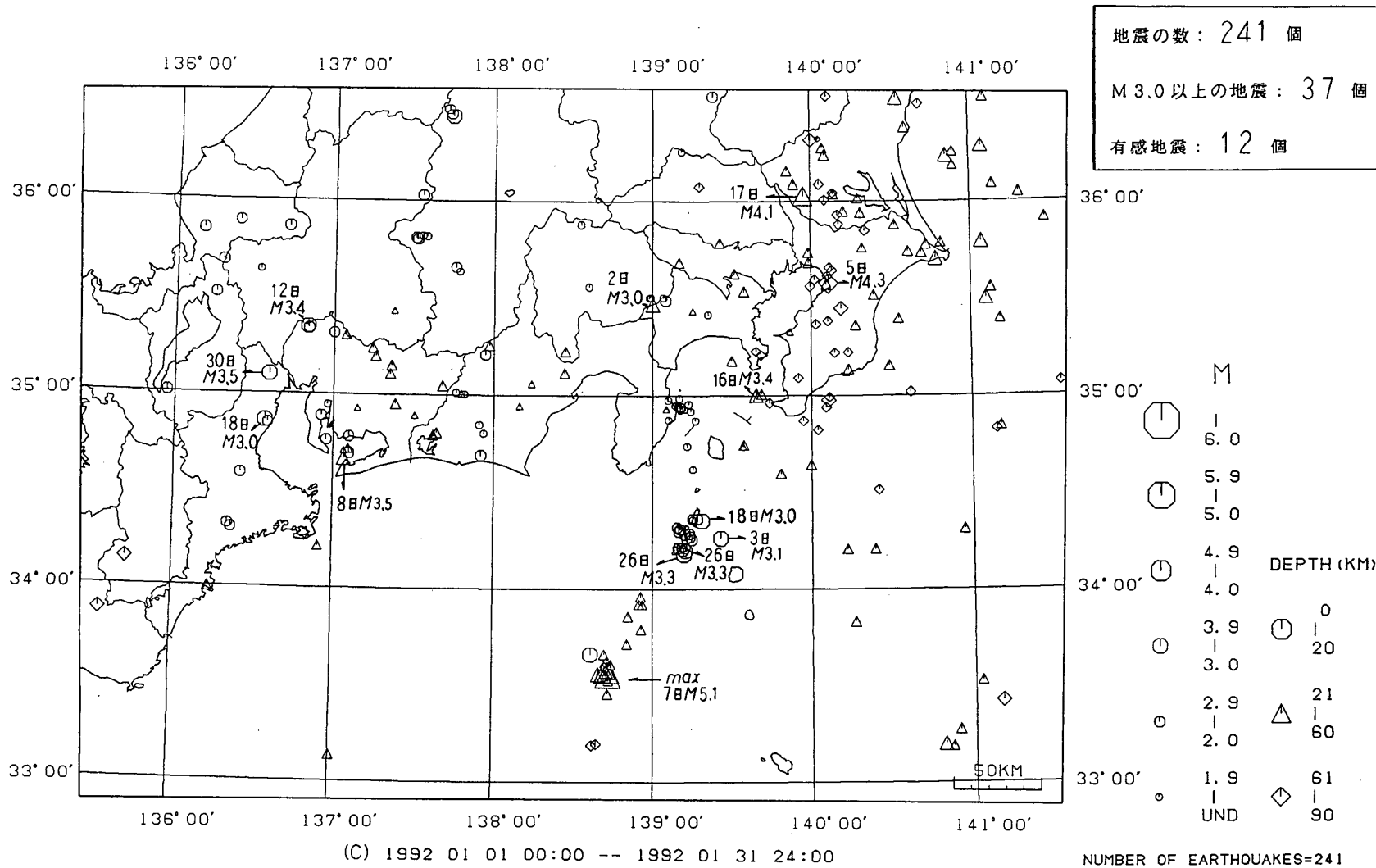


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

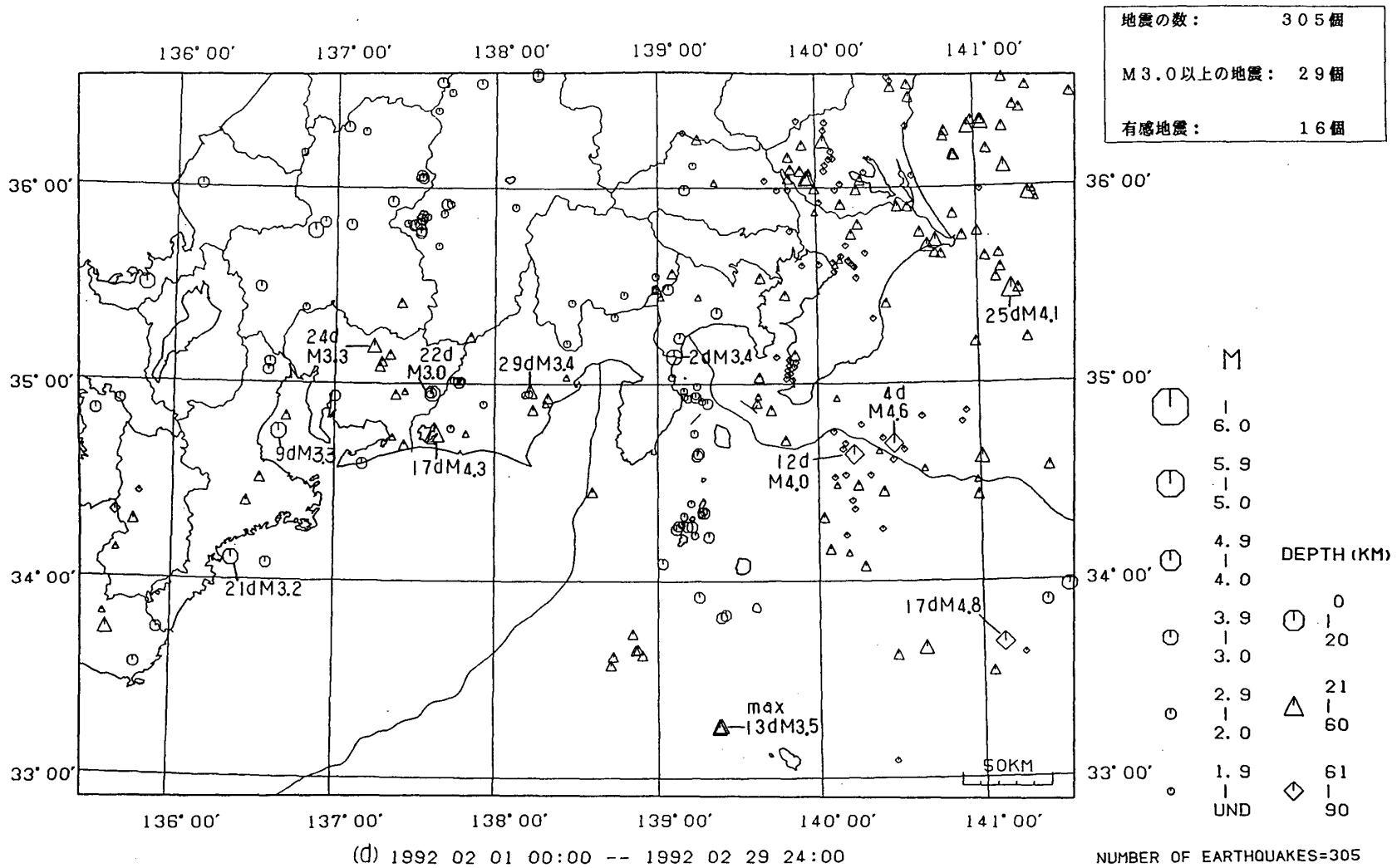


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

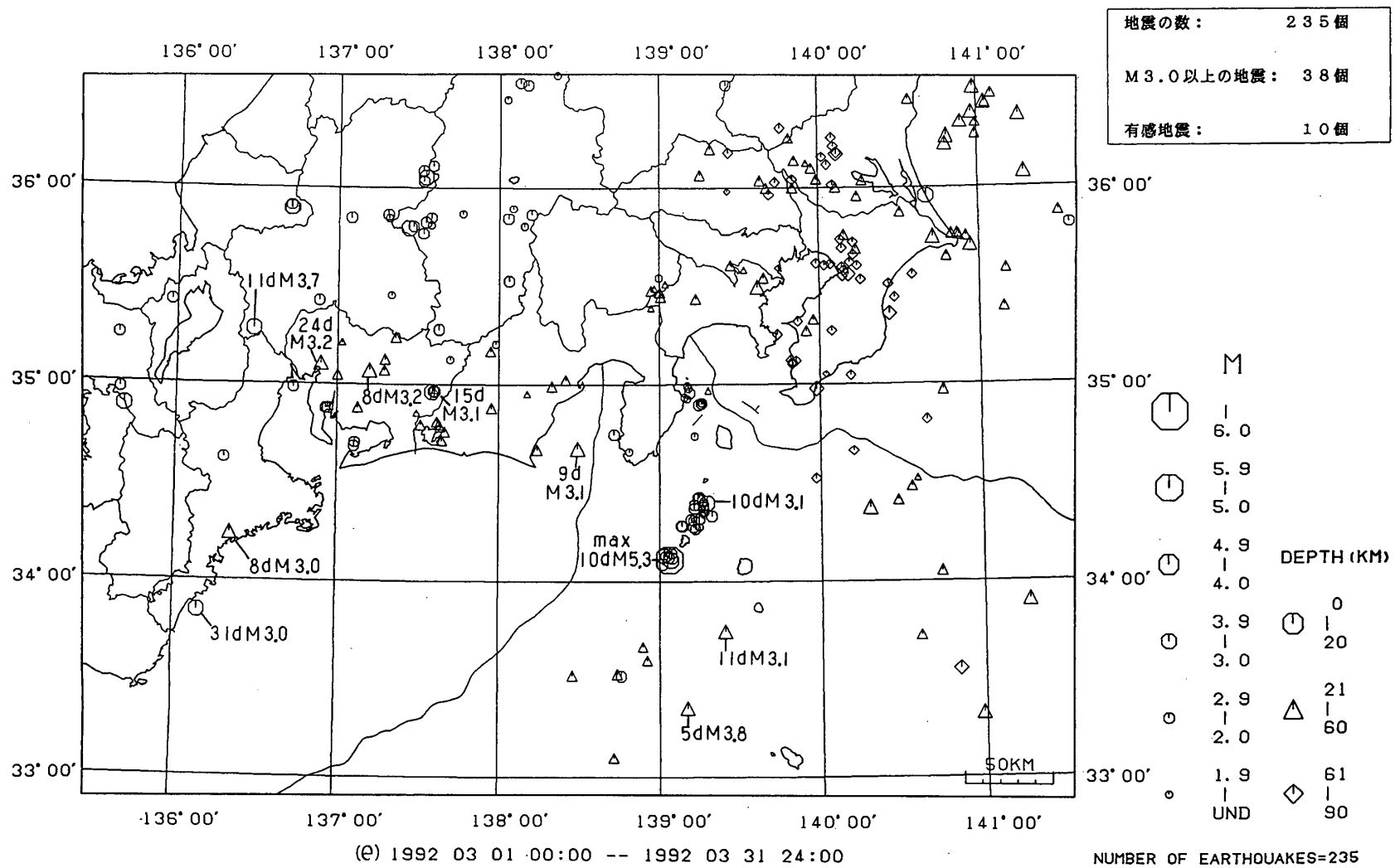
Fig. 1 (Continued)



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

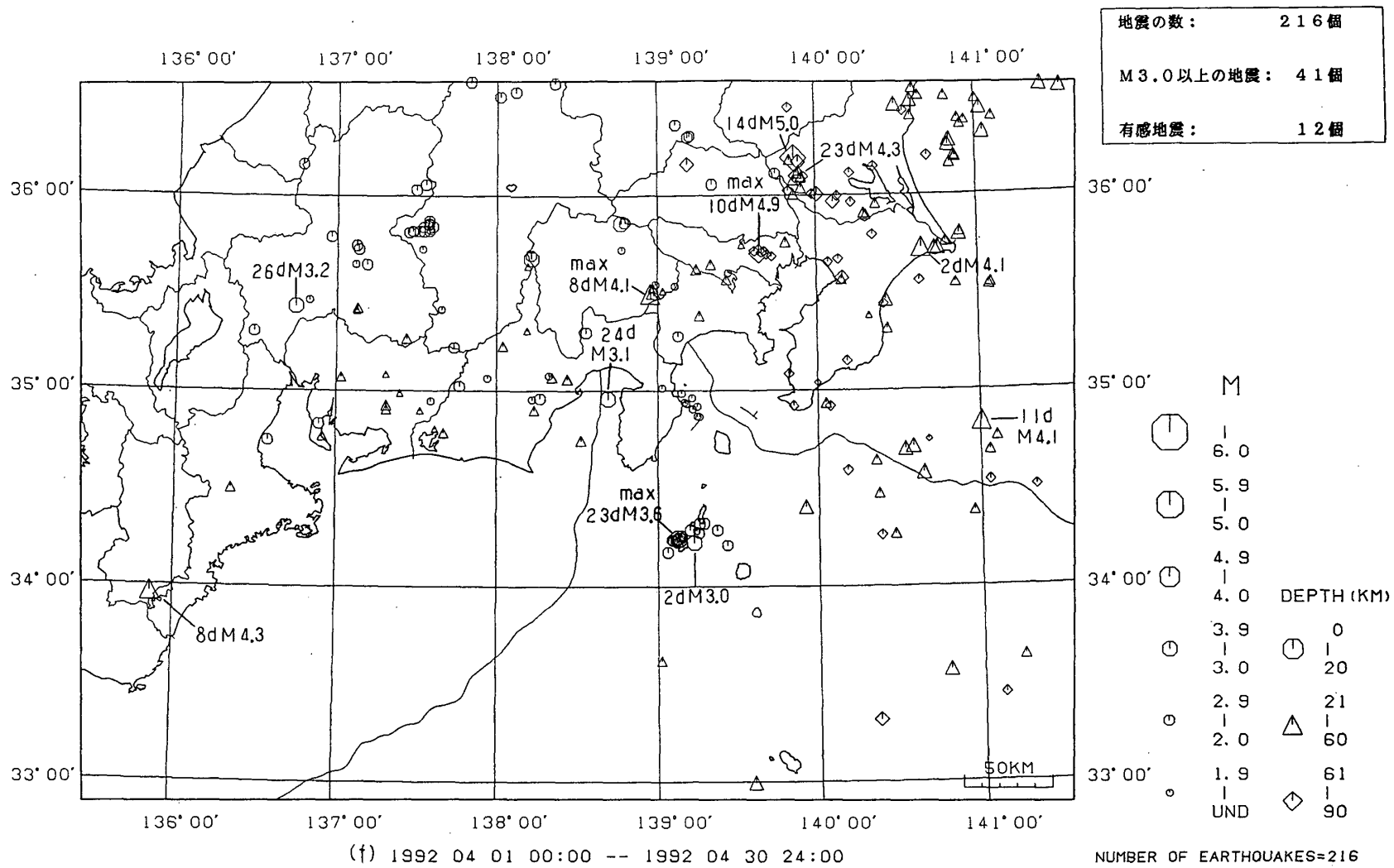
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



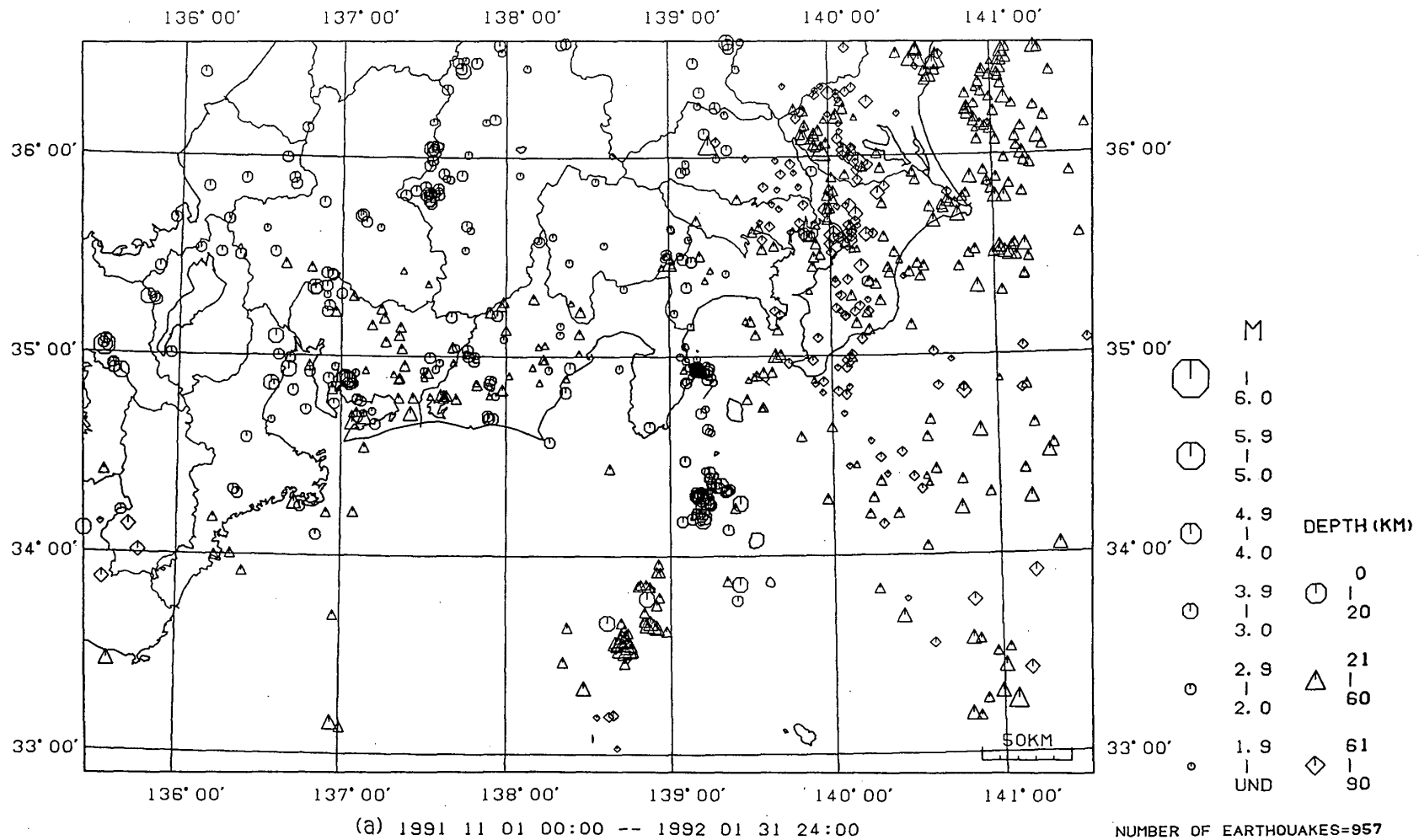
暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



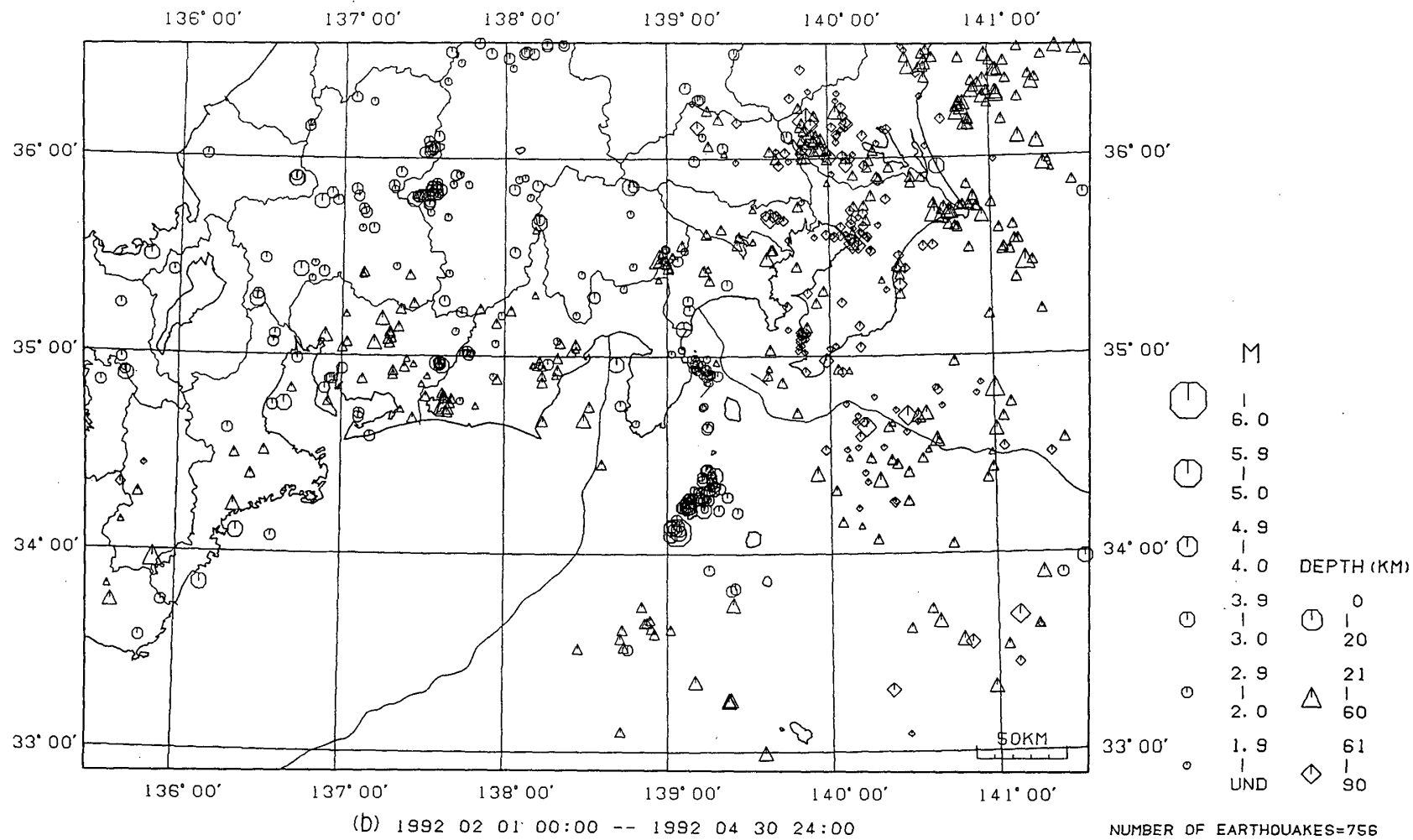


暫定 : 1991年12月→

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図(a)・(b) 東海・南関東地域に発生した地震の3カ月毎の震央分布 (1991年11月~1992年1月, 1992年2月~4月)

Fig. 2(a)·(b) Quarterly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for (a): November, 1991 – January, 1992 and (b): February – April, 1992.

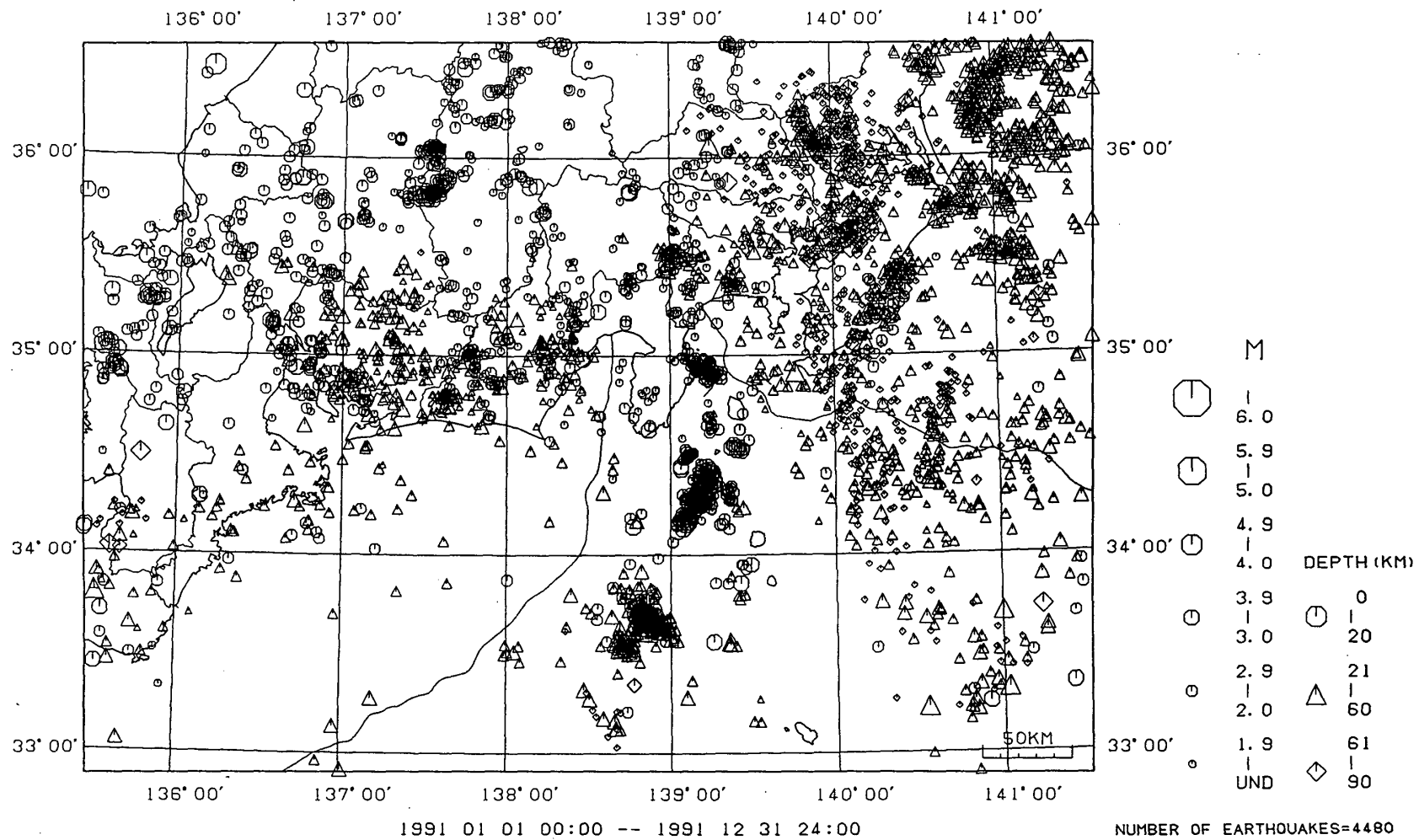


暫定 : 1992年 3月→

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第3図 1991年1月～12月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January – December, 1991.